

今までの人生で一番刺激的な経験

岩見沢校 芸術・スポーツビジネス専攻 3年生 越後 綾音

2016年3月、シアトルへ3週間の短期留学をしました。短期でしたが、この留学は私にとって人生で初めての経験でした。ワシントン大学 (University of Washington) で STEP (Short Term English Program) というプログラムに参加しました。このプログラムは3週間で集中的に語学力を磨くことが目的です。今回は日本人が多く見られましたが、トルコや中国などあらゆる国からの参加者がいました。



(写真:桜が咲いたワシントン大学の中庭)

STEP の授業では始めに 10~15 名程度のクラスに分けられ、クラスごとに授業をしていました。授業は月曜日から金曜日の午前中のみ。先生が適度に小休憩を挟んでくれたのでうまく集中することができました。授業の中では英語のイディオムや間違えやすい文法の使いわけ、ネイティブ独特の発音など、日本の学校で受ける授業ではあまり学べないようなことを学びました。

火曜日と木曜日の午後には先生方がシアトルの名所に連れて行ってくれるフィールドトリップもあり、英語を学びつつ、シアトルの文化を感じることができるプログラムでした。STEP の授業を通して感じたのは、自分の考えを英語で伝える勇気を持つことができたということ。うまくペラペラと話すことができるようになったわけではないですが、発表する場やクラスメイトとディスカッションする場が多く設けられていたため、なんとか自分の考えを伝えようとたくさん考え、自分なりに英語で伝えることができたと思います。先生方も優しく親切でした。私たちがあまり英語を得意じゃないということもわかってくれているので、些細な質問にも答えてくれたりつたない英語でも理解してくれたので、ためらうことなく自分なりの英語を話すことができました。

ワシントン大学はとても広大な規模で、建物もすごくカッコいいものばかりでした。学校内には現地の人だけではなく、色々な国の学生が見られ、とてもグローバルな大学だと感じました。HUB (Husky Union Building) というインドアスポーツができる施設もあり、ボウリングやビリヤードなどを学校にしながら楽しむことができ、とても刺激でした。

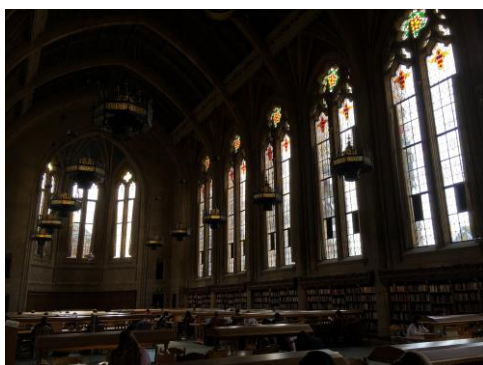
今回シアトルに3週間いた中で、文化の違いをととても感じる事ができました。特におもしろかったのは、週に1~2回しか洗濯をしないこと、路肩に路上駐車の形での駐車場があること、そしてよっぽどの雨でない限り傘をさしている人がいないことです。3つめにあげた、人々が傘をささない現象は、シアトルならではの現象だと思います。シアトルは“雨のまち (Rainy City)”と呼ばれるほどほぼ毎日雨が降っていました。たまに一日中晴れの日があると、人々は驚く程で、一日に雨と晴れを繰り返すこともしばしばでした。そのため人々は土砂降りでない限り、傘をささないということなのでしょう（中には土砂降りでも傘をささない人もいましたが）。

またシアトルはスターバックス一号店があることで有名ですが、スターバックス以外にも色々なカフェがそこら中にありました。私は個人的にカフェに行くことが好きなので、毎日の学校の行き帰りなどでたくさんのカフェに行っていました。せっかくなので皆さんもシアトルで“カフェ巡り”をして、自分のお気に入りのカフェを見つけてみるのも良いのではないのでしょうか。



(写真：学校近くのカフェで飲んだモカ)

3週間という短い期間ではありましたが、ホームステイもし、常に英語を話す環境にいたことで、自分が想像していたよりも自分の英語力、特に発音と聞き取りの部分で成長を感じることができました。そして、今度は1年間以上の長期留学をしてみたいと思うようになりました。留学をするということは自分にとっては大きな決断になると思います。ですが、絶対に自分にとってとても刺激的であり、少し大げさかもしれませんが今後の人生を考える上でプラスになる経験だと思えます。これは長期でも短期でも同じだと考えます。私もそうでしたが「長期で行くのはちょっと勇気が出ないな…」という方はぜひ長期休みの3週間でいけるこの短期プログラムに参加してみてください。



(大学内の“スザロ図書館”)



(フリーモント地区にあるトロール増)